

経済協力セミナー第 22 回

## 国際 NGO プラン・ジャパンの途上国支援

講演者：山形 文氏

日本フォスター・プラン協会 プログラム部 シニアオフィサー

文責：永井哲平

草案作成：三代川仁美

庄司彩乃、黒岩早紀

中元寺大明、海老沼智紀

大西翔太、岡田恭平

北島ゆうこ、坂本久恵

杉浦千晶、鈴木香穂

武田えりか、寺田友世

戸田小百合、戸田成紀

新野亜衣、柳瀬瑞希

山本葉



講演者である山形氏は、大学卒業後約7年間一般企業に勤務し、ODA 案件に携わる。その後、プラン・ジャパンに転職、個人および企業スポンサー・サービス業務を経て、現在は日本国政府をはじめとする公的資金を獲得してのプロジェクトの実施・管理を担当されている。

国際 NGO であるプランの活動は、1937 年スペイン内戦時に戦災孤児の保護施設を作ったことがその始まりである。第二次世界大戦後は、復興支援から途上国の開発援助へとその活動内容を変化させてきた。国連に公認・登録されており、政治的および宗教的に中立な立場で、子どもとともに地域開発を進める NGO 機関である。本部はイギリスにあり、20 の支援国と 48 の活動国からなる。プラン・ジャパンは、国際 NGO プランの日本事務局と

して 1983 年に設立された。現在、スタッフは 60 人 (国際 NGO プラン全体では 8,212 人)、翻訳などのボランティア 1044 人 (プラン全体では 6 万人)、資金を提供するスポンサー 5 万人 (プラン全体では 114 万人) によって成り立っている。日本では NGO 機関には政府からも支援金が出されるのが一般的だが、プラン・ジャパンは収入に占める政府からの支援の割合は 1%ほどあり、他の NGO 機関と比較すると少ない。地域開発支援は緊急支援と地域開発の 2 つに分けられる。緊急支援は被災世帯の対象の生命や財産の保護が目的となり、できる限り早急に始められ短期間で終了する。これに対してプランが行っているのは地域開発であり、地域の住民の自立支援を目標として、5~10 年ほどの長期間、地域住民とともに進めるというものである。支援物資の側面において、緊急支援では出来るだけ多くの物資を、出来るだけ多くの人に平等に分配することが必要とされる。それに対して、地域開発においては、緊急支援とは反対に、物品の供給はなるべく少なくされている。おもな援助の内容としては、緊急支援では、食料や物資等の支給や避難所の整備、壊れた家屋などの修繕であるが、地域開発では、学校教育における質の向上や保健サービスの整備、収入増加のための支援など、インフラとキャパシティ・ビルディングに当てられている。緊急支援では、対象となる被災世帯は援助に対して受身を取る形となるが、地域開発では、計画段階から対象地域の住民の主体的な参加が重要なファクターになっている。国際 NGO プラン・インターナショナルは地域開発のプロフェッショナルであるが、ハイチでの大規模な地震に際しては、地域開発支援の大部分を前述の緊急支援と復興支援に切り替えて行われている。しかしながら、このような緊急支援も将来的に地域開発支援につながられるような、長期的な計画によって実行されている。

プラン・ジャパンは、子どもが貧困に立ち向かっていくことができるような地域を作るため、①保健医療と子どもの健康、②教育と学習、③住まいと生活、④住民と生計、⑤相互理解と協力の 5 つの分野を掲げている。①では子どもの健康診断や予防接種、②では学校の建設、③では井戸や道路の建設、④では職業支援や農業技術支援、灌漑技術の支援、⑤では子どもがプロジェクトの立案に関わったり住民集会を行ったりするといった、子どもたちが地域開発の担い手としての自覚を持てるような取組みが行われている。プラン・ジャパンの取り組みはいわゆる里親制度とは異なり、特定の子ども (チャイルド) を地域住民の代表として、支援者 (スポンサー) はその子どもを取り巻く地域の開発を支援するという形をとる。チャイルドとスポンサーは年に数回の手紙や写真のやり取りを通して、つながりを感じることができる。プラン・ジャパンの支援国は郵便制度のない国がほとんどであるため、手紙はボランティアの手によって首都から県、市、町、そして家庭へと届けられる。戦争や災害の際の緊急支援が、できるだけ早く、物質的な救援を行うのに対し、プラン・ジャパンは、成果を見ながらゆっくりと、地域住民とともに活動を進めていく点が特徴である。

今回の講演会では、はじめにプラン・ジャパンの活動紹介の DVD を鑑賞してから行わ

れ、プラン・ジャパンの支援体制について詳細な説明がなされた。講演後には質疑応答の時間が設けられ、学生たちからの盛んに質問が行われた。このように、国際支援やNGOについて興味を持つ学生にとって、この講演は大いに刺激になるものであったはずだ。